

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 金沢市立長坂台小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒921-8112

石川県金沢市長坂3丁目14番1号

E-mail nagasakadai-e@kanazawa-city.ed.jp

Website http://cms.kanazawa-city.ed.jp/nagasakadai-e/

幼児児童生徒数 男子 202名 女子 197名 合計 399名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項1-2、2-1に対応

当校は平成22年度に、ユネスコスクールの認定を受け、環境や伝統・文化、福祉を主要テーマとして生活科や総合的な学習の時間を中心とした持続発展教育の実践に取り組んでいる。自分たちの身の回りの自然や歴史・環境・人材など、地域とのつながりの中から、調べて分かったことやかなえたことを互いに聴き合い、自分の考えを深めることをねらいとして活動に取り組んでいる。

①伝統や文化に係わる学習

3年生 人がつながるまち金沢

金沢は、全国の中でも和菓子の消費量が多く、和菓子で有名な街であることを知ったことをきっかけに、調べ学習を進めていった。その結果、和菓子は、季節や行事に応じて食べられていることや加賀藩藩主前田家がお茶文化を勧め、盛んになったことから、人々の生活に根付いていったことなどが分かった。実際に氷室まんじゅうや福梅を味わったり、和菓子工場を見学したり、和菓子職人から和菓子作りを学ぶ体験をしたりしたことから、職人さんの技術やこだわりについても学ぶことができた。



4年生 わたしたちのふるさと金沢

長坂に受け継がれてきたものとして、六地藏や孝子義子の碑について、本などから調べることで、今もなお、地域の方から大切に受け継がれているのには理由があることを確認することができた。長坂に伝わる踊り「あさんがえし」については、地域の保存会の方から振り付けだけでなく、その意味や由来について教えていただき、運動会では全校に学習の成果を披露することができた。

長坂用水の学習では、当時の用水を作った人々の苦労や努力、工夫について学習した。また、用水作りに使用する道具に触れ、使わせてもらうこともできた。金沢の偉人については、ふるさと偉人館の見学を通して、一人一人調べたい人物を決めた。調べたことを画用紙などにまとめ、地域や他学年に向けて学習の成果を発表することができた。



②環境に係わる学習

5年生 知ってる？長坂の環境～長坂の環境について考えよう～

「環境」についていろいろなところで取り上げられているが、自分たちが住んでいる長坂の環境について今まで考えたことがなかった。そこで、長坂の環境には問題があるのか、今日本や世界の国々でどのようなことが問題になっているのかを調べることにした。

学校前の環状道路は想像以上の交通量があり、調べ活動から、地球温暖化や酸性雨などの深刻な被害があることを知ることができた。そして、環境を守るために自分たちにできることはないかについても考え、資源を大切に無駄遣いしない工夫を考えることができた。また、町の中にゴミがポイ捨てされている現状があることを見つけ、ゴミの量や種類についても調べた。生活様式がどんどん便利になっていく中で、ゴミもどんどん増えていることを見つけ、どうしたらゴミが増えないかについて調べ、リサイクルについても考えることができた。



③福祉に係わる学習

6年生 ひびきあう～今、自分にできること～

「自分たちの暮らす長坂のまちは、くらしやすいだろうか？」という問いから学習に入った。児童達は遊ぶところが多く、山側環状線もあって便利で暮らしやすいと答えた。しかし、「お年寄りや障害のある人たちはどうかな？」と問うと、答えに悩んでいる様子が見られた。そこで、全ての人が今より暮らしやすいまちになるように自分にできることを考えることを目標に、『福祉』についての学習を始めた。

お年寄りや障害のある人たちの気持ちを少しでも理解するために、様々な疑似体験を行った。また校下にある介護老人保健施設の職員の方と利用者の方との交流や車いすバスケットボールの選手との交流も行った。

交流や体験を通して自分が興味をもったことについてさらに調べ学習を行い、体に不自由があっても、道具や設備の工夫次第で自分たちと同じように生活ができることや、同じようにスポーツを楽しむことができることを知った。そして、それを基に自分たちにできることは何かについて一人一人、深く考えることができた。



ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困

<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()	

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

書籍「華やか金沢」(金沢市教育委員会作成 副読本) 書籍「かなざわ偉人物語」(金沢こども読書研究会) 書籍「みんなのユニバーサルデザイン」(学研) その他多数使用しています。
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程(指導計画)にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200～300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

<p>本校の教育目標、教育方針に沿って毎年、全体計画を作成している。それを基に各学年ごとに年間カリキュラムを作成し、学習を行っている。生活科や総合的な学習の時間を基本としつつ、他教科との連携も図りながら発達段階に応じた内容を設定している。</p> <p>そして年度末に学習活動をふりかえり、次年度のカリキュラム作成を行っている。</p>
--

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

本校では毎年、ユネスコスクールとして取り組んだ学習内容の発表の場として、「長坂台コミュニティー」を行っている。それに向けて年度当初に学習のねらいを教職員で共通理解することで、組織的かつ継続的に活動に取り組んでいる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

学期ごとに、児童と教職員それぞれで学習活動についての自己評価をアンケート形式で行っている。それを基に、学期や年間の学習活動をふりかえり、次の学期や次年度への改善につなげることができている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

本校では③でも述べた「長坂台コミュニティー」を毎年行っている。長坂台コミュニティーでは本校の児童や教職員だけでなく、保護者や地域の方への発信も行っている。保護者や地域の方へ発信することで、自分たちの身の回りの歴史や環境等について、同じ地域で生活する人たちが一緒になって地域を大切に思い、よりよくしていくために考え行動できるようになっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

各学年の活動内容に応じて、地域の伝統文化に関わっている人たちや、校下にある福祉施設の人たち等との交流を多く行っている。各分野における有識者の話を聴くことで具体的にその分野について学ぶことができると共に、それぞれに関わる人たちの様々な想いを理解することにもつながっている。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

昨年度から2月に金沢市内の小中学校の代表児童生徒が集まり、ユネスコスクールにおける取り組みの発表を行い、交流している。それぞれの校区の特色を生かした活動内容を知ることができ、持続可能な社会の実現に向けて、考えを広げることができている。

しかし、県外や国外のユネスコスクールとの交流は行っていない。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールとしての活動を続けてきたことで、児童は自分たちがこれから生きていく社会により興味をもつようになってきている。また、教職員のみならず保護者・地域とも関わりながら活動していることで、自分が地域の一員であるという自覚が強くなり、よりよい社会にしていけるために一人一人が自分なりに考えを持つことができるようになってきている。また、活動内容の発信で終わらず、コミュニケーションをとりながらともに学び合おうという姿勢が生まれてきた。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

今年度の活動を基に、課題を改善し全体計画、学年ごとのカリキュラムを作成する。平成30年度も、低学年は「生活科」、中高学年は「総合的な学習の時間」を基本として学習を行っていく。学習内容の領域を「伝統と文化」「心の交流」「地域の特色」の3つに分け、具体的には「伝統・文化」「歴史」「環境」「福祉」をテーマに今年度に引き続き行っていく。ただし社会の変化にも対応して、必要に応じて具体的な内容を変更していく。

活動の発信の場として、今年度も「長坂台コミュニティー」の開催を予定している。